

1. 被災地の廃棄物の安全性について

◎大阪市での受入対象物は、主に木くず等可燃物

- ・安全性が確認されたものに限られる
- ・岩手県の選別後の廃棄物の空間放射線量は、
0.020~0.100 マイクロシーベルト/時
- ・大阪市内の大気中では、0.078~0.080 マイクロシーベルト/時
- ・放射能濃度は、不検出または微量

	国	府・市
受入廃棄物	240 ベクレル/kg	100 ベクレル/kg
焼却後の 焼却灰	8,000 ベクレル/kg	2,000 ベクレル/kg

×1/4

・100 ベクレル/kg：廃棄物を安全に再利用できる基準

・一般食品の新基準：100 ベクレル/kg

・大阪市における安全指針の策定

放射能の測定箇所や測定頻度を増やすなど、より厳しく
管理を徹底し、データは公表します。

ベクレル (Bq)：放射性物質が、放射線を出す能力、放射線の強さを表す単位

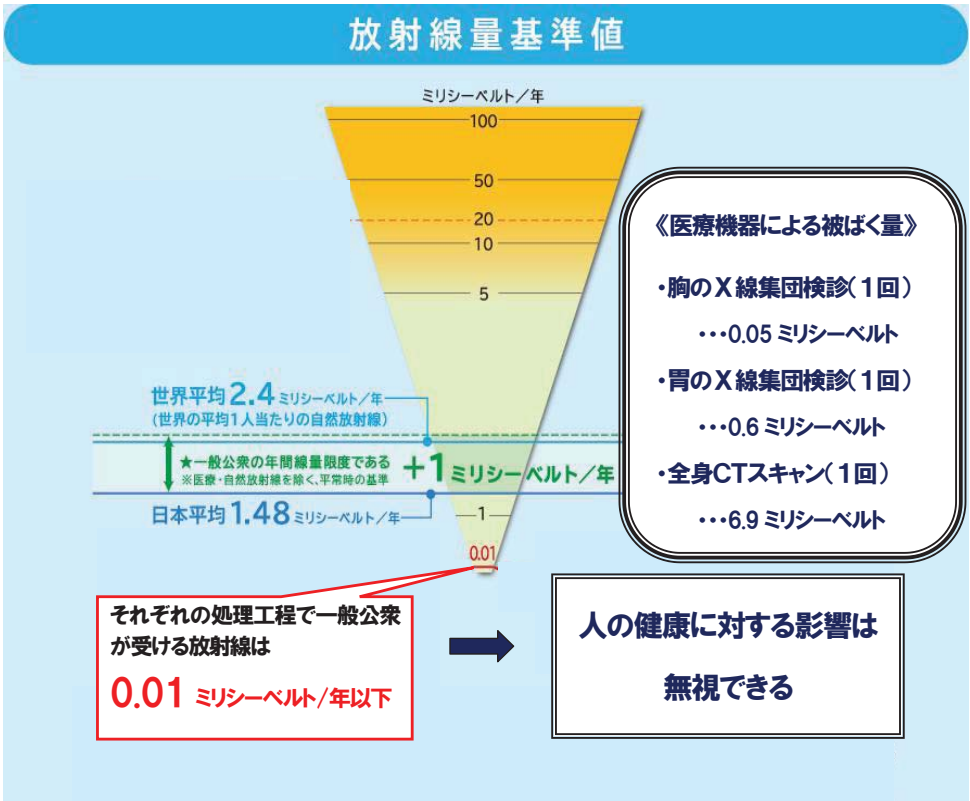
(1秒間に1個、放射線を出す場合が1ベクレル)

シーベルト (Sv)：放射線によって、人が受けた放射線影響の度合いを表す単位

(人体に対する影響度)

(参考) 放射線に関する基準等について

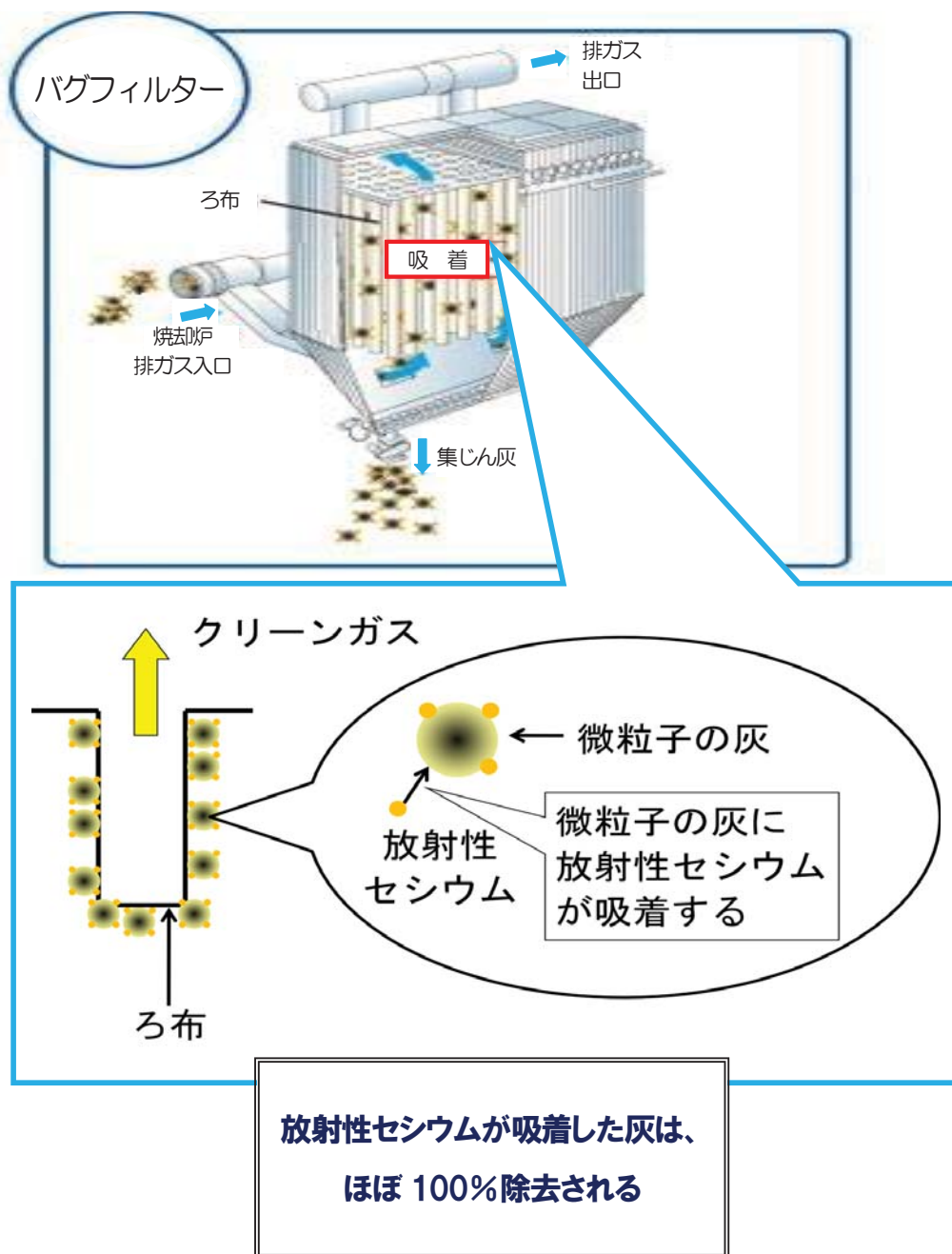
(1) 放射線量基準値



(2) 食品中の放射性セシウムの新基準

食品群	基準値 (ベクレル/kg)
一般食品	100
乳児用食品	50
牛乳	50
飲料水	10

2. 排ガスに関する安全性について



3. 埋立に関する安全性について

- ・環境省の個別評価結果について、大阪府の検討会議で放射線の専門家により、再度、技術的に検討されました。

《評価結果の概要》

(単位：ベクレル/L)

工 法	埋立地の残留水面での放射性セシウム濃度	ピーク出現年数
①通常の埋立工法 (ゼオライトなし)	検出下限値以下 (計算上は5.39)	166年
②ゼオライト敷設工法	検出下限値以下 (計算上は0.172)	243年

-97%

※最大濃度 2,000 ベクレル/kg の場合の評価

- ・北港処分地（夢洲1区）において、②ゼオライト敷設工法を採用することで、安全性の確保に万全を期してまいります。
- ・計算上の数値で見ても、飲料水の新基準 10 ベクレル/L を下回っています。
- ・なお、受け入れる焼却工場については、北港処分地（夢洲1区）に近接する舞洲工場とします。

東日本大震災により生じた廃棄物の広域処理について

大阪府

I. 岩手県、大阪府、大阪市の基本合意

8月3日に岩手県、大阪府、大阪市の、岩手県の早期復旧・復興に必要な被災地の廃棄物の処理を、安全性を確保し、相互に協力して実施するための基本的な事項について合意しました。

- 受入れの対象は、岩手県の木くず等可燃物で

放射性セシウム濃度が1キログラム当たり100ベクレル以下のものに限る。

- 平成26年3月31日までに、上限36,000トン进行处理する。
- 安全性確認のための調査等は、岩手県・大阪府・大阪市が協力・分担して行う。

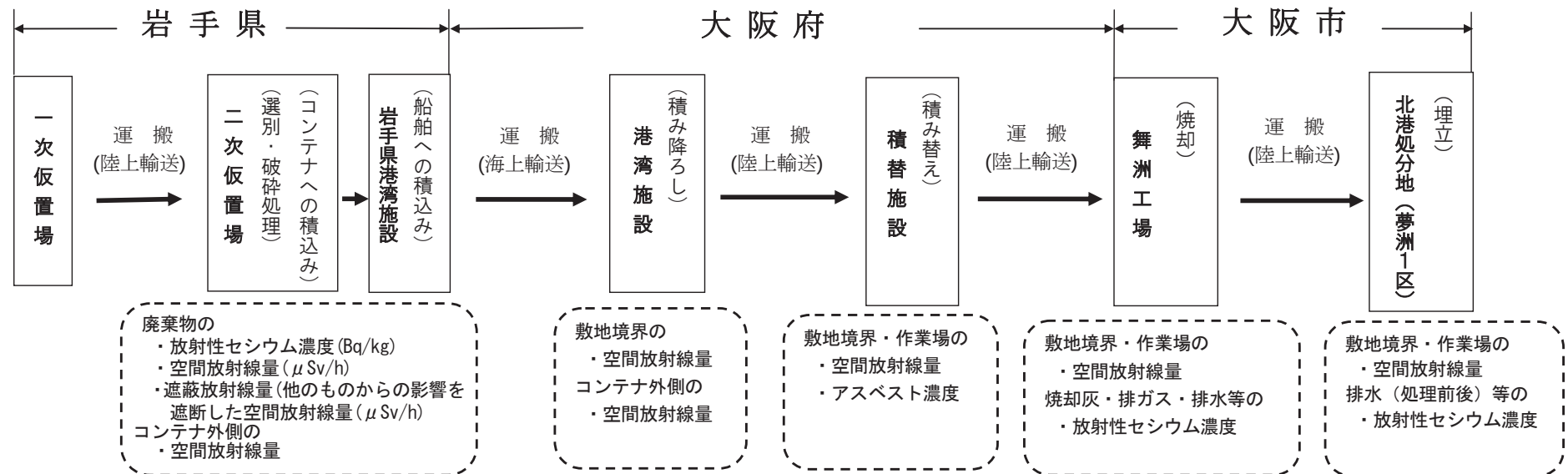
受入れを予定している岩手県の廃棄物

- 被災地で十分に選別された
木くずを中心とした可燃物です。
 - 放射性セシウム濃度は、
府の受入基準を十分に下回っています。
- ※現地に府職員を常駐させ、きめ細かく確認します。

<受入対象の可燃物>



II. 大阪府・大阪市による廃棄物の処理の流れと安全性確認



☆安全性確保のための方針

① 受け入れる廃棄物は、放射性セシウム濃度を測定し1キログラムあたり100ベクレル以下 (一般食品と同じ基準) の安全なものしか受け入れません。

② 運搬は密閉式コンテナや荷台シート掛けダンプトラックなどを使用し、飛散・流出防止対策を徹底します。

③ 運搬、積み替え、焼却、埋立の各段階で、きめ細かく測定を行い、異常なデータが出たら処理を中断します。

④ 処理量や測定データは速やかに公表します。

⑤ まずは、試験処理を行い、測定データなどにより安全性を確認した上で、本格処理を行います。

＜被災地（岩手県）の廃棄物の状況＞

○岩手県内での破碎・選別処理工程のイメージ



重機・人力による粗選別



機械による破碎・選別



人力による選別

選別後の可燃物(受入対象)

宮古地区の二次仮置場



○岩手県の災害廃棄物の放射性セシウム濃度

【一次仮置場】

【二次仮置場：破碎・選別処理後】

(下表のデータは、これまでに各県で実施された
広域処理の受入廃棄物の実測値です。)

市町村	日付	種類	組成 (%)	測定結果 (Bq/kg)				【参考】 可燃物の 推計結果 (Bq/kg)
				¹³⁴ Cs	検出 下限	¹³⁷ Cs	検出 下限	
田野畑村	H24. 5	木質	36. 1	ND	13	ND	19	(注2) 32. 2
		紙類	0. 0	ND	18	ND	20	
		繊維	0. 3	ND	20	ND	20	
		プラスチック	3. 6	ND	15	ND	18	
		わら	0. 8	ND	18	ND	18	
		5mm未満細塵	59. 1	ND	19	ND	18	
岩泉町	H24. 5	木質	41. 4	ND	16	ND	17	(注2) 33. 2
		紙類	0. 5	ND	17	ND	20	
		繊維	1. 1	ND	17	ND	17	
		プラスチック	4. 2	ND	18	ND	16	
		わら	0. 9	ND	18	ND	16	
		5mm未満細塵	51. 9	ND	16	ND	19	
宮古市	H24. 5	木質	20. 8	ND	16	ND	17	(注2) 37. 6
		紙類	0. 0	ND	12	ND	13	
		繊維	0. 6	87	19	110	19	
		プラスチック	2. 6	ND	18	20	19	
		わら	0. 3	ND	15	ND	18	
		5mm未満細塵	75. 7	ND	15	29	15	

(注1) ND : Not Detected (検出下限以下)

・・・測定できる最低値に満たず、検出できなかったことを意味する。

(注2) ¹³⁴Cs 又は ¹³⁷Cs が「ND」の場合、検出下限の値を用いて算出

市町村 (種類)	日付	測定結果 (Bq/kg)				合計値 (Bq/kg)	出典
		¹³⁴ Cs	検出 下限	¹³⁷ Cs	検出 下限		
宮古市 (可燃物)	H24. 4	ND	2. 7	ND	2. 8	ND	秋田県 公表資料
	H24. 5	ND	2. 5	ND	2. 9	ND	
	H24. 6	ND	1. 9	ND	2. 0	ND	
	H24. 5	ND	2. 8	ND	2. 7	ND	石川県 輪島市 公表資料
	H24. 5	ND	2. 2	ND	2. 6	ND	
	H24. 5	ND	3. 9	ND	4. 4	ND	群馬県 公表資料

※宮古市の二次仮置場には、田野畑村、岩泉町、宮古市の一次仮置場から搬送されている

出典：岩手県「岩手県災害廃棄物処理詳細計画（平成24年度改訂版）」より

＜放射性セシウム濃度等測定方法＞

・放射線セシウム濃度の測定

(ゲルマニウム半導体検出器による放射性セシウム濃度の測定)



・空間放射線量の測定

(NaIシンチレーション式サーベイメータによる空間放射線量の測定)



◆岩手県における広域処理の必要性について

岩手県における懸命な災害廃棄物の処理

(がれき総量約395万トン)

- ▶ 住民が生活している場所の近くの災害廃棄物の仮置場への移動
- ▶ 農地等に散乱した災害廃棄物の仮置場への移動
- ▶ 津波に被害により損壊した家屋の解体を含めた災害廃棄物の仮置場への移動
- ▶ 災害廃棄物の処理(平成26年3月末完了目標)

※岩手県において、計7基(既設炉5基、仮設焼却炉2基)が稼働中

H23.8
までに達成

H24.3
までにほぼ達成

約84% 終了

約18.8% 終了

(平成24年7月31日現在)



2011.4 津波被害の直後



2011.5 災害廃棄物撤去後
(岩手県釜石市大町付近)



2011.11 仮置場の様子
(岩手県宮古市)

岩手

県内施設を最大限活用するとともに、新たに仮設焼却炉も設置して処理を進めています。それでも、目標年度までに処理を完了させることが難しいため、広域処理へのご協力をお願いします。

◆ 広域処理必要量:
計: **42万t**

広域処理必要量(7月末現在) (万トン)

	可燃物	木くず	不燃混合物	漁具・漁網	合計
調整済	4	1	5	0.1	10
要調整	13	11	—	8	32



可燃物



木くず

原則として、新たな受入先の調整は行わず、調整中の自治体において広域処理の実現に全力を挙げる。



不燃混合物



漁具・漁網

当面は、新たな受入先の調整は行わず、県内における再生利用等に全力を挙げる。

引き続き、調整中の広域処理(神奈川県等)の具体化を図るとともに、新たな受入先との調整を行う。

